

題目：消費購買行動によるライフスタイルの類型化とその特徴 ——プラスチック関連の環境配慮行動・価値観の比較——

氏名：寺垣穂香

指導教員：大沼進

プラスチックの海洋汚染や廃プラスチック有効利用率の低さなど、プラスチックを巡る問題が顕在化しており、適切な資源循環に繋がる消費者の行動が必要だ。環境配慮行動を促すにはライフスタイルの見直しも重要である。ライフスタイルは環境配慮行動全般や価値観、社会規範やコスト評価などの要因と関わりあっているが、具体的にどう関連しているかを網羅的に検討した研究は少ない。そこで、本研究では、日常生活の飲食に関する消費購買行動に基づくライフスタイルの類型化を行い、各類型別の特徴を把握することを目的とした。日本在住者 18 歳以上男女個人を対象にした Web 質問紙調査を実施した（有効分析標本数 2400）。質問項目は、デモグラフィックス、プラスチックに関する環境配慮行動の規定因、環境配慮行動、価値観等であった。日常生活における消費購買行動は、5 段階の尺度だけでなく、買い物や弁当・総菜購入、外食等の具体的な頻度も尋ねた。消費購買行動を主成分分析及び因子分析で整理し、そこから得た 5 つの尺度を用いてクラスタ分析を行った。その結果、環境に優しいライフスタイルの *environmental* 型と、環境に優しくないライフスタイルの *rude* 型、*overconsumption* 型、*nothing doing* 型の 4 つのクラスタに分類された。*rude* 型は 50 代男性が多く、簡便な食事ですませるが、不用品や使い捨て品は辞退あるいは購入しない傾向があった。*overconsumption* 型は、40 代未満で子供がおり正規職に就いている男性が多く、利己的価値観が高く、深刻さ認知が低い一方、使い捨て品取得行動や継続使用品購買行動の平均得点が高かった。*nothing doing* 型は、30 代以下で同居者はいるが子どもがいない男性が多く、環境配慮的な行動も過剰消費もしなければ、日常の消費購買行動もあまりしない傾向が見られた。また、利他的価値観及び生物圏的価値観や深刻さ認知も低かった。*rude* 型には手間を低減する工夫、*overconsumption* 型には利己的価値観に働きかける触れ込みなど、各ライフスタイルに応じた行動変容アプローチが考えられる。だが、*nothing doing* 型は従来から知られる働きかけでは行動変容が望めない。この層の発見は従来の環境配慮行動研究に課題を突きつける。本研究はプラスチックを巡る消費者行動の検討材料を提供した。